



まちづくり活動の拡がり - 北部地域

\*本号に関連する活動を紹介した物で、北部方面のすべての活動をしめしている訳ではありません。

2000  
~  
(H12)

1999  
(H11)

1998  
(H10)

1997  
(H9)

1996  
(H8)

1995  
(H7)

1994  
(H6)

1993  
(H5)

都市計画局の  
まちづくり事業

第2回  
都市デザイン  
フォーラム  
まちづくり会議  
(1998.11)

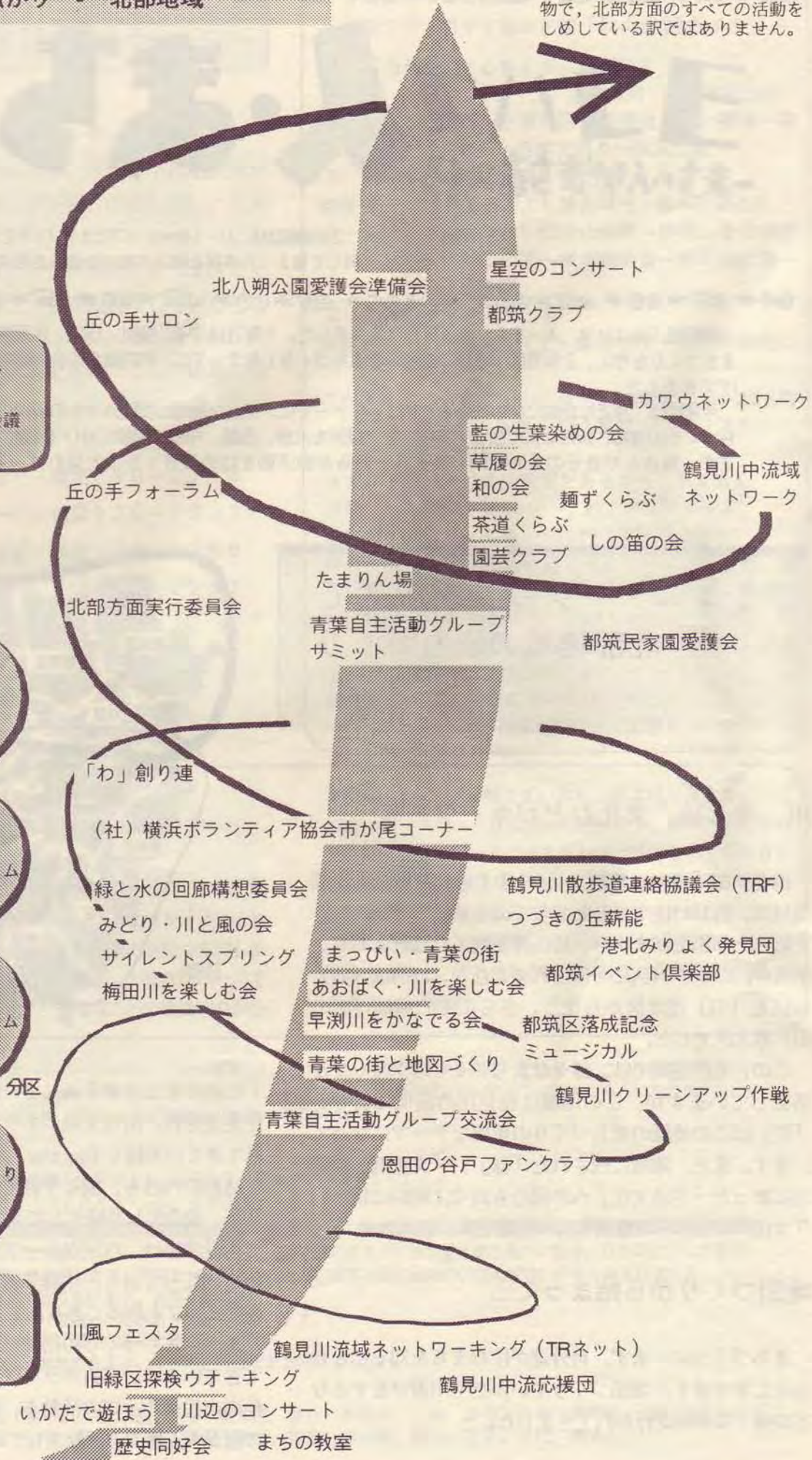
ヨコハマ  
ひと・まち  
横丁展  
(1996.12)

まちづくり  
市民フォーラム  
(1995.12)

魅力ある  
まちづくり  
市民フォーラム  
(1994.12)

よこはま  
市民まちづくり  
フォーラム  
(1993.11)

第1回  
都市デザイン  
フォーラム  
(1992.3)



## 交流の場ができた

活動がある程度すすむと、他のグループとの情報交換により、グループ相互が刺激しあって活動の多様化、活性化がすすみます。鶴見川流域ネットワーク（TRネット）や青葉区の「たまりん場」など、個別の市民活動をネットワークしたり、情報交換をし交流の場が形成されている例がみられます。

交流の場は、必ずしも専用の施設を必要としません。

（社）横浜ボランティア協会市が尾コーナーや「都筑民家園」など、既存の地域施設をうまく使うことによって、まちづくりセンター的な交流の場ができてきているようです。

## コミュニケーションをとることが住み続けるための第一歩

左の図は、北部地域のまちづくりの動きの様子をみるため、今回紹介する事例等を中心に整理したものです。

郊外の新しい住宅地では、まず身近なところからコミュニケーションをつくりあげ、次第にその輪を広げていくことが、そこに住み続けるための第一歩なのかも知れません。

## 新しいまちで、ともに暮らす

昭和30年代後半から40年代前半にかけ、日本は高度経済成長のなかにあり、都市への人口流入が著しい時代でした。横浜市も例外ではなく、昭和35年～40年の5年間で約40万人増加し、農地と山林が広がる市北部にも、住宅開発の波が押し寄せていました。

多くの地区で、住み続けるために良好な環境の新しいまちをつくり、新しい住民を受け入れていこうとしました。乱開発の防止を目的のひとつとして、計画的につくられた新しいまちの中で最大規模のものが港北ニュータウンです。これらの多くは、地権者の方々が道路・公園等の公共施設整備に協力し、個々の土地を再配置するという土地区画整理事業により、長い年月をかけて実現されてきたものです。そして、このまちに多くの人が期待と希望を持って移り住んできました。

住み続けてきた人と新しく住み続けていこうとしている人が、ともに暮らし、今も活気ある新しいまちづくりが進められています。

## 川から始まるまちづくり

横浜市の北部を流れる鶴見川は、源流は町田市で、横浜市の青葉・都筑・緑・港北区を通り、鶴見区で東京湾に注がれる一級河川です。全長42.5km、流域面積235平方km、流域人口170万人、流域の形は、動物の「バク」の姿に似ています。近年の急速な開発により、河川整備が行われ、典型的な都市河川となりました。毎年建設省が発表する一級河川の汚染度リストでは、いつもワースト3位から5位に載り、今年は遂にワースト2位になってしまいました。

しかし、その鶴見川にも、魚・鳥・植物等の豊かな自然が息づいています。残された貴重な空間を活かし、自然を楽しみながら散策に遊びに、鶴見川を市民に親しめる川に育て「いい川づくり」を目指している、市民の自主的な活動団体が鶴見川流域にはたくさんあります。横浜北部の「川仲間」の最近の活動状況を報告しましょう。



いかだで遊ぼう谷本川'99「追い込み漁」

7月24日、谷本川（鶴見川の本流）の市ヶ尾で、「いかだで遊ぼう谷本川'99」が開かれ、スタッフも入れ500人もの親子が参加しました。今年で11回目となるこのイベントでは、子供達が竹でいかだを作り、レースを行いません。追い込み漁で魚を捕ったり楽しいイベントです。'89（平成元年）東京から移り住んだばかりの数人の主婦が、新たな生活環境の中で地域を見つめた時、目の前の川で何かできないかと、思い立って細々と始めたものが今では、「あおばく川を楽しむ会」を中心に、19もの市民団体が実行委員会を結成しました。普段は素通りしてしまう川で実際に遊ぶことによって、夏休みの親子向けの環境教育とともに、川を生かしたまちづくりを考え

るきっかけとなればと思って実施しています。

8月28日は、鴨居の河川敷で、「みどり・川と風の会」主催の「川・風フェスタ in KAMOI」が開催されました。旧緑区主催の「探検ウオーキング」の一環としてスタートしてから、今年で10回目、もうすっかり夏の風物詩となりました。フリーマーケットや鶴見川の生きもの調べ等が終わると、夕方から、「川辺のコンサート」。階段状の堤防が観客席に早変わります。

横浜北部では、こうした会の他に、「早渕川をかなでる会」「恩田の谷戸ファンクラブ」「梅田川を楽しむ会」「サイレントスプリング」「鶴見川中流応援団」「鶴見川散歩道連絡協議会 (TRF)」「港北みりよく発見団」等の川づくりの会が集まって「鶴見川中流域ネットワーク」「カワウネットワーク」を結成し、鶴見川流域ネットワーク (TRネット) のサブネットとして活躍しています。TRネットの組織化にあたっては、都市計画局・地域まちづくり推進事業の助成を受け、ネットワークを広げてきました。川づくりには、行政とのパートナーシップが不可欠ですので、河川管理者である神奈川県横浜治水事務所と定期的に実際に川を歩きながら、一緒に川づくりの意見交換をしています。

9月から11月は、鶴見川流域で一斉にクリーンアップ作戦が始まります。みんなの力で日常の地道な活動を通じて、親しみやすいいふるさとの川ができればと思います。そして、川筋だけでなく、流域全体の水循環をも含めた「流域のまちづくり」に繋がっていくことを願っています。(早渕川をかなでる会 福富 洋一郎)

#### 連絡先

- ・あおばく川を楽しむ会 (小林正江) 045-911-5901
- ・みどり・川と風の会 (高木 有) 045-934-4740
- ・梅田川を楽しむ会 (加野庸子) 045-933-3417  
(<http://www.yk.rim.or.jp/~kano-/index.shtml>)
- ・恩田の谷戸ファンクラブ (藤田廣子) 045-961-8015
- ・早渕川をかなでる会 (福富洋一郎) 045-942-3480  
(<http://member.nifty.ne.jp/tanika/index.html>)
- ・サイレントスプリング (日吉澄枝) 045-934-6716

### まちづくり、文化づくりに 企業の支援

#### — 都筑クラブ

‘99年 (平成11年) 夏休み最後の週末の黄昏どき、都筑区の中央、地下鉄センター南駅前のすきっぷ広場は、1000人以上の人々で埋めつくされていました。

これは、4月に発足した都筑クラブが主催する「星空のコンサート」で、すきっぷ広場オープン以来最高の入場者。人々は最後まで席を立つことなく、クラシックの名曲を楽しみ、広場は、穏やかで、暖かい雰囲気にも包まれたのです。

「都筑クラブ」の設立趣旨—「都筑のために何ができ

るか、未来に何が残せるか、まちづくり、文化づくり、そして人づくりに向けて志を一つにしたメンバーひとりひとりが輝き、まわりに生命を吹き込み、生々とした笑顔いっぱいのもちづくりを目指す」—にそった第1回目の企画イベントでした。

都筑クラブは、実務組織と顧問そしてサポーターよりなっています。顧問は、地元企業の代表者と地権者からなり、支援金を出していますが、運営は全面的に実務組織に任せています。

当初、クラブの活動を具体化するための検討の中で、ニューヨークでの体験から野外クラシックコンサートを夢見る都筑区在住のピアニストの思いを実現させようと、プロデュースし、支援することとなりました。支援を受けたピアニストは、コンサートの運営委員長となり、出演者と事務局スタッフのボランティアを募りました。有料が構造上無理な野外広場で、無料の「星空のコンサート〜ドリーム・オブ・クラシック〜」が、市民と企業の協力で実現したのです。都筑区の名物行事となることを祈って....。

都筑区には文化活動を応援する企業が、いわゆる港北ニュータウンを中心に多数あります。都筑クラブが発足する前、文化活動を通してまちづくりを考える「都筑イベント倶楽部」がありました。7年間続いたこの市民活動グループから生まれたり、支援を受けた団体は、今では都筑区の新しい文化を創るリーダー的存在になっていますが、皆、企業の全面的支援を受けて発展してきました。それは、資金面であり、事務所の提供であり、発表の場の提供などです。

活発な文化活動は、メディアにより、新しい町の躍動感として外に伝えられ、企業にとっても好ましい要因であったと思われます。新しい町だからこそ、移り住んだ住民も、進出してきた企業も、良い町になってほしいという共通の思いがあり、そのパワーが都筑区全体を引っ張り、生き生きとした町になってきているのだと思います。

都筑クラブは、今後、文化以外の市民活動も応援できるように、良きリーダーとなれる人材育成に力を注げる支援体制をつくっていきたいと考えています。

(都筑クラブ会長 山田 美千子)

連絡先 (山田美千子) TEL.&FAX 045-941-7454



## 青葉区の人と人をつなげたら

- 青葉自主活動グループサミット **たまりん場**

青葉区は横浜市の中でも一番北に位置し、田園都市線沿線の東京のベッドタウンとしてのイメージが強い区です。地下鉄が通り、横浜に30分で行けるようにもなり、現在は26万4千人の人々が生活しています。2000以上のグループが自主活動している活気ある地域でもあります。しかし自分の活動範囲での満足度が高いためか、グループ同士の交流や住んでいる隣り近所との交流まで活動の幅を広げるまでにはいかないようです。

そこで、青葉区で活躍している自主活動グループの輪をもっと広げようと、平成6年度と7年度には、青葉区区政推進課主催の「自主活動グループ交流会」が、平成9年度には、青葉区地域福祉課と（社）横浜ボランティア協会市が尾コーナーの自主事業として「第1回青葉自主活動グループサミット」が開催されました。

その後は、自主活動グループやボランティア団体が実行委員会をつくり、区役所の協力や多くの先輩のアドバイスを受けて、「青葉区自主活動グループサミット」を年に1回開催しています。さらに、自主活動グループの連帯感、地域におけるコミュニティの活性化、グループ交流のきっかけづくり、何か始めたい人に対する情報提供など、交流を充実させるために、2年前からは（社）横浜ボランティア協会市が尾コーナーで、毎月、実行委員会の定例会および「たまりん場」活動を開催することになりました。

「たまりん場」では、毎回違った自主活動グループやボランティア団体に活動発表を行ってもらい情報交換をします。これまで「あおばく・川を楽しむ会」、「まっぴい・青葉の街」（地図づくりグループ）、「歴史同好会」など、数多くのグループに発表してもらいました。区広報紙や情報誌、インターネットなどを通じて大勢に参加を呼びかけ、国際交流のグループ、福祉のグループ、区民会議のメンバーなど、参加者も多岐にわたっています。「たまりん場」があることで、日常的にはなかなか接点のない、違う分野の活動がわかり、つながり合うきっかけになります。

また、「住民」として外国人や障害者がどのように自分たちの思いを発信し、また発信できる場を周りの住民とともにつくるのか、これは新たな「たまりん場」の課

題です。さらに最近では、中学生も参加するようになり、若い人たちの意見を運営にどう生かしていくかも工夫していきたいと思います。

（青葉自主活動グループサミット実行委員 葉山節子）

連絡先

（社）横浜ボランティア協会市ケ尾コーナー

TEL. 045-974-5525 FAX. 045-974-5524

青葉自主活動グループサミット実行委員会

実行委員長 旭 智洋 TEL.&FAX. 045-901-0656



外国人も参加して....

### 外国人住民をまちづくりへ

外国人という立場をアメリカで経験し、住民として外国人が社会にアピールしていることを感じた私は、帰国後の日本で何か違うと思いました。区民会議には外国人が出席していませんでしたし、国際交流団体では、外国人のためのよりよい環境づくり（生活情報を提供する、生活に必要な日本語を教える、日本人の国際理解を深めるなど）は考えていますが、外国人が主体となって発信する場づくりというのはいないようでした。

住民として外国人が主体的に関わるまちづくり、異文化を表現できるまちづくりが必要なのではないのでしょうか。

青葉区区民会議では、97年の「区民のつどい」より、毎年、外国人住民に発言の場をつくり、外国人住民のまちづくり観を日本人区民に知ってもらうこと、「まち」は様々な人で出来上がっていることを、目に見える形にすることを進めてきました。

先日、中国人の若い女性が、地域の老人給食サービスへボランティアを申し込んできました。地域活動に外国人住民が参加すること、その流れを支える「場」や「人づくり」にも日本人と外国人が共に参加すること、こういったことの橋渡しを担うこと、まだまだすることはありそうです。

（青葉自主活動グループサミット実行委員 小池由美）

## 「たまりん場ハイク '99」(9月25日(土))

「たまりん場ハイク '99」は、たまりん場の行事のひとつ。人に優しい「共生」のまちづくりに貢献したいと考え、ハイクの参加者を障害者、外国人、青少年、子どもから大人まで多岐にわたって集めたのが特徴です。

準備を進める中で、必然的に障害者と中高生や、自主活動グループの人たちとの交流が生まれています。

当日は、約6kmの谷本川(鶴見川)沿いの道を歩きました。寺家ふるさと村では田園風景にふれ、生活環境の変化を考えたり、途中の鉄町高水敷では自然観察を通して、生き物との共生を考え、障害者の方々の介助や車イス体験を通じてお互いの交流を深めました。イラン人のボランティアによるイラン料理も楽しみ、国際交流を図ることもできました。

学校教育の中でもボランティア活動が位置づけられつつある現在、その受け皿として今回のような企画が必要になってくると思われます。今後も、この活動を継続していくことで、共に地域で暮らす者として人と人とのつながりの大切さを伝え、実践していきたいと思っています。

(青葉自主活動グループサミット実行委員 松村美千子)

## 北八朔公園

— 北八朔公園愛護会



緑ヶ丘中学校との交流会

北八朔公園は、緑区と青葉区の区境、東名高速道路港北パーキングエリアの南側に隣接した、面積7.7haの里山自然型公園です。

昭和40年代に急速に開発された田園都市沿線にあって、北八朔地区には手つかずの谷戸が残されていました。

「朝日湖」という大きな溜池があり、よしのぼり等の生き物が、この谷戸だけに生き残っていました。

ごく普通のサラリーマンOBがこの地域の自然や歴史に気づかされ、つき動かされて保全活動から公園事業化へと活動を発展させて行ったのです。

活動の成果は、ありきたりの公園でない、より自然な姿を残した里山(2次林)として、地域の子供達に引き継がれることになりました。

この公園は今年5月にオープンしましたが、計画からオープンまでにかかなりの年月が経過したので、雑木林や竹林は荒れ、放置された里山の見本のようになっていました。そのためか、春先の竹の子や野草の無断採取が当たり前のようになっていました。

そのような状態の中で、平成10年には緑区役所からの呼びかけで、北八朔公園愛護会準備会が発足しました。区では'90(平成2年)「探検ウオーキング」以来、「緑と水の回廊事業」を始め、区民の参加を募って緑地保全の体験学習を行ってきましたが、その経験者が愛護会準備会では中心メンバーとなったのです。

愛護会準備会は、「自然と地域住民との共生」を前面に打ち出して、規約の作成やオープン後の活動体験会を行ってきました。隣接する緑ヶ丘中学校の生徒の里山ボランティア体験も受け入れてきました。そしてオープニングイベントに向けては、緑区内の各種サークルや近隣の自治会に出演や協力を呼びかけ、さらに緑ヶ丘中学校の生徒たちにはイベントの司会をしてもらいました。みんなが快く引き受けてくれて、イベントを成功に導くことができ、その後、公園を人と人とのふれあいの場として育てていくことにつながっています。

公園愛護会は、公園の美化及び安全な利用を図ることを目的に、これに賛同する地域住民によって構成される団体です。この目的のために、園内の清掃、除草及び灌水などを行うのですが、その他にも必要な活動を行います。ここでは現在、植生調査、竹炭焼きなど、公園を、地域住民や子どもたちの交流拠点とする活動を重点的にを行っています。

現在会員は約170人登録しており、毎月第2土曜日の定例活動日には50人ほどの参加者がいて、賑やかな会合となります。今後は、会員の希望に応じた作業グループを編成して、それぞれのグループがアイデアを盛り込んで作業をおもしろく、楽しく進める方策を考えてもらうことにしています。

運営の中心となる役員のうち、会長は、準備会当時の地域の連合自治会長で、当初から精力的に活動に参加しています。副会長2人のうち1人は地域の自治会から選出しますが、1人は地域住民から選び、事務局長を兼任する体制としました。

愛護会の発展に積極的な心をもった会員がたくさんいることと、それらの会員をまとめて快いリーダーシップを発揮できる会長と副会長（事務局長）がいることが愛護会の発展につながっているのだと思います。

（北八朔公園愛護会 大槻 孝）

所在地：横浜市緑区北八朔町。

アクセス：JR横浜線中山駅北口から43番系統市営バスで「下市ヶ尾」下車徒歩5分。東急田園都市線市ヶ尾駅、青葉台駅、藤が丘駅からもバスの便がある。有料駐車場あり。

連絡先：北八朔公園愛護会TEL045-934-1202（船橋幸男）

## 都筑民家園

都筑民家園愛護会

都筑民家園（旧長沢家住宅）は、平成9年3月に、横浜市歴史博物館の野外施設として開園されました。その後、市民共有の文化財として有効活用されるよう、（財）横浜市ふるさと歴史財団より、地域住民を主体として結成された「都筑民家園愛護会」に運営を委託されました。

愛護会は民家園の保存と市民活用という大きな目標のもと、専任の事務局員3人を置き、交代で民家園の管理・事業運営等を行っています。私はその事務局の1人で、主に事業企画を担当しています。

私が地域活動を始めたキッカケ、それは「まちの教室」という活動です。

以前の港北ニュータウンには、東京、横浜という文化圏にありながら、文化施設も無く、小さな子供連れでは、遠くまで出かけることもできないので、そんな親たちが集まって、「自ら求めるものは、自ら創り出そう」という文化活動を始めました。児童劇の観賞会や音楽会を小学校の体育館で開催。その流れで、オリジナルミュージカルの製作、バンドの結成、コーラスグループの結成などをの活動が生まれました。都筑分区後も、つづきの丘薪能、都筑区落成記念ミュージカル等の企画や運営に関わりながら、たくさんの仲間と、それぞれが得意とする分野を受け持ちながら、10年程活動してきました。

民家園での初年度は、庭園・畑・主屋の管理、年間事業の企画・運営と、常時1人勤務の中でこなしていかなければならず、忙しい思いをしましたが、今では事務局員3人のそれぞれ得意な仕事を中心にこなしていく方法と、ボランティアを募集し、その協力により運営していくことによって徐々に解決しています。

また当初は、民家園に関わっている行政が教育委員

会、緑政局、ふるさと歴史財団と、少しずつ考え方の違う組織で、市民活用という言葉の解釈ひとつとっても三者三様のため、調整するのに大変苦労しました。4者で大バトルが繰り返され、お互いの歩み寄りと、理解とアキラメの結果、今はいたって平和です。



「麺づくりらぶ」そば打ち講習会 '98.11

民家園の目標である市民活用は、次の事業を通して行っています。大きく分けて、年中行事、定例企画、特別企画の愛護会主催事業と、一般の文化活動サークルへの主屋貸し出し事業です。主催事業は、年度初めに大まかに企画され、ボランティアの方も加わり、細かい内容を決め、運営・実行します。現在、畑や囲炉裏等の世話をしている「園芸クラブ」、毎週土曜日にしの笛の練習をしている「しの笛の会」、流派を超えて集まった「茶道くらぶ」、そば打ちの大好きな人たちの「麺づくりらぶ」、日本の伝統文化を伝えるための企画グループ「和の会」、ハギレ布で作る「草履の会」、藍の葉を育て染め物をする「藍の生葉染めの会」の7つのサークルと、ボランティアの皆さんで事業を支えています。

皆さんは、ほとんど民家園で知り合った方たちで、民家園の良さを高め、広めたいという共通の思いと、この空間でのいろんな人たちとの交流を心から愛している方々です。空間の持つ魅力は建物だけでなく、そこに息づく人がいてより大きくなるものだと思います。民家園には特に細かい展示物はありません。何も無いだけに、人がこの空間をどう生かすかが重要になってきます。今後は、主催事業のみならず、生涯学習グループの方からもいろいろなアイデアを出していただけるよう、生涯学習支援センターなどとも連携していきたいと思っています。（都筑民家園愛護会事務局 岡本みどり）

所在地：都筑区大柵西2番 大塚歳勝土遺跡公園内

アクセス：市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩8分

連絡先：都筑民家園愛護会 TEL.045-594-1723

# 生涯学習支援センター

北部方面にある生涯学習支援センター（学習相談コーナー）は、各区の区役所内にあり、専任の学習相談員が学習情報の提供、学習相談、学習機材の貸し出し、交流の場の提供をしています。

支援センターのなかには、市民が情報をもってくれ、必要な市民に提供するという仲人役をしているところもあります。そこへ行けば、ほしい情報が得られ、ほかのグループと交流することもできる、こんな地域の情報発信源でもあるのです。

港北区生涯学習支援センター 電話540-2246

緑区生涯学習相談コーナー 電話930-2237

青葉区生涯学習支援センター 電話978-2288

都筑区生涯学習支援センター 電話948-2237

（生涯学習支援センターについては、”ヨコハマ 人・まち”4号に詳しく掲載しました）

ドラマティックな開港140年を漫歩する！

～横浜シティガイド協会主催「秋の企画ガイド」～

A 横浜発展の中心地を歩く港と関内

開催日：10月23日（土）集合場所：桜木町駅改札  
コース：汽車道～新港地区～海岸通り～大棧橋～開港資料館～日本大通り～横浜公園

B 幕府の英知を再認識する野毛

開催日：11月6日（土）集合場所：桜木町駅改札  
コース：ガス会社跡～成田山別院～伊勢山皇太神宮～掃部山公園～横浜能楽堂～野毛山公園～日ノ出町駅

C 西洋の文化に浸る山手

開催日：11月20日（土）集合場所：石川町駅南口改札  
コース：イタリア山～山手公園～元町公園～234番館～外人墓地～111番館～フランス山～ヘボン邸跡

\*ガイドコースは多少変更があるかもしれません

時間：午前9時30分～、約2時間半ガイド

参加費：各回とも当日500円（保険料込み）

申込方法：往復葉書に希望コース（Aなどの記号、複数コース可）、参加者全員の氏名、年齢、住所、電話番号を記入の上、〒231-0825 中区本牧 間門31-18 嶋田方「横浜シティガイド協会」まで（当日参加も受け付けます）

問合せ：TEL045(623)4550（嶋田）

045(681)6918（山田）

## 「よこはま川のフォーラム'99

めぐる水・人・よこはま」が開催されました。

昨年からはまった「よこはま川のフォーラム」。今年は実行委員会と下水道局の主催で、7月から8月までを「よこはま川の博覧会活動編」として、市内各流域の35活動が参加しました。そして9月5日には、その「総集編」が新都市ホールで開催され、各活動のパネル展示と、流域ごとの活動紹介が行

われました。この1年でずいぶん各流域が見えるようになり、ネットワークが広がった感じです。展示パネルは内容を競う投票を行ったこともあり、力作ぞろいで見方もつい熱心になりました。また、各流域5分の活動紹介では、建物が川にせまる入江川、会場のすぐそばにカニがいることを紹介した帷子川、ガールスカウトが元気な大岡川.....などなど、それぞれの特徴があり、大変興味深いものでした。（賀谷）

横浜市のホームページの中に「ヨコハマ 人・まち」のホームページを開設しています。この印刷物とほぼ同じ内容のものがインターネットでご覧になれます。インターネット版では、バックナンバーもごらんになれます。  
(<http://www.city.yokohama.jp/me/hitomati>)

編集：「ヨコハマ 人・まち」編集会議

発行：横浜市都市計画局企画調査課 〒231-0017 横浜市中区港町1-1

TEL 045-671-3512 FAX 045-663-3415

### 編集後記

北部地域の代表的なまち港北ニュータウンでは、正に、進行型のまちづくりがすすめられています。住み始めた人が多く住み続けるための若い力を感じます。市域をバク然とみたととき、北部方面に元気印の活動が多いのもうなずきました。

次号では、西部地域を取りあげます。お楽しみに。

今回は、たくさんの方に寄稿いただきありがとうございます。

本文中、特記のないものは編集会議の文責によります。

編集会議はどなたでも参加できます。ご意見、ご感想をお聞かせ下さい。

第9号編集メンバー：

赤松 彰利、秋元 康幸、大谷 聡、金成 耕太郎、賀谷 まゆみ、川崎 あや、川澄 真知子、鴻田 康子、重岡 昭男、園部 弘明、谷口 和豊、福田 美子、福富 洋一郎、松井 祐子、三代 裕子